

# タコかご漁業におけるマダコ脱出試験 (鹿児島大学水産学部との共同研究)

資源管理部 主任研究員 立石章治

**目的** タコかごに入った小ダコが脱出できる方法を検討し、将来の親タコを確保することでマダコの資源管理に資する。

## 試験内容及び方法

- ①水槽でマダコの脱出サイズと脱出口の直径の関係を検討した。(鹿大で実施) ②指宿市岩本地先で脱出口を取り付けたタコかごを用いて操業試験を実施した。



かご側面に脱出リング  
(直径25mm, 30mm, 35mm)



かご漁具 20個(従来かご10個, 脱出リング10個)  
浸漬日数: 1~4日間

## 結果

### ①脱出試験

水槽試験の結果、商品サイズとなる体重300gのマダコを脱出させるには、直径2.7cm以上が必要であった。

### ②試験操業

10回の試験操業の結果、従来かごでは33個体が獲れ、うち300g以下の小型は14個体と多かった。一方、脱出口付のかごでは17個体が獲れ、300g以下はわずか1個体のみと少なかった。

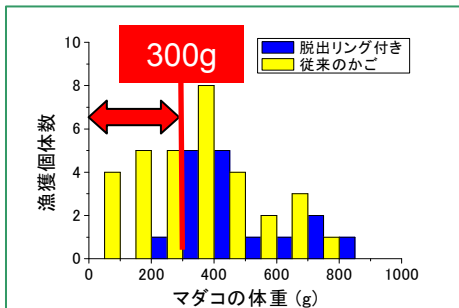
### ①脱出試験

	脱出リングサイズ			体重 (g)
	25mm	30mm	35mm	
1群	○	○	○	105-300
2群	×	○	○	350-520
3群	×	×	○	500-640
4群	×	×	×	565-760



脱出リング周長  $R > 0.43 \times W^{0.52}$   
 体重300g以下を脱出させるには  
 リングの直径を2.7cm以上

### ②試験操業



(従来かごで脱出できなかった小ダコ)



(脱出口から脱出する小ダコ)



## 考察

鹿児島大学との共同研究の結果、マダコのサイズと脱出できる直径の関係が明らかとなった。

また、これらを基にかごに脱出口を取り付けることで小ダコの漁獲軽減や将来の親タコの確保が図られると同時に、2個体以上入ったときに時折見られる斃死による商品価値の低下も防ぐことができると考えられた。